

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
剰余金の配当の基準日	期末配当 3月31日 中間配当 9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所JASDAQ (スタンダード)
公告の方法	電子公告により行います。 公告掲載URL http://www.ajis-group.co.jp/ir/e-koukoku/index.html 〔ただし、電子公告によることができない事故、 その他のやむを得ない事由が生じたときは、 日本経済新聞に公告いたします。〕



ホームページのご案内

当社ホームページには、会社情報やサービス紹介、ニュースリリースといった基本的な情報はもちろん、株主・投資家情報では、経営情報、財務ハイライトなどの情報をご覧いただけます。是非ご覧ください。



<http://www.ajis-group.co.jp/>

エイジス

検索

株主優待制度のご案内

株式会社エイジスは、株主の皆様への利益還元のひとつとして株主優待制度を実施しております。



割当
基準日

9月末日

優待内容

100株以上1,000株未満所有の株主様
お米券3kgを贈呈いたします。

1,000株以上10,000株未満所有の株主様
お米券5kgを贈呈いたします。

10,000株以上所有の株主様
お米券10kgを贈呈いたします。



(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



株式会社エイジス
〒262-0032 千葉県千葉市花見川区幕張町4-544-4
TEL:043-350-0888 FAX:043-350-0800

第39期 報告書

2015年4月1日 — 2016年3月31日

売場の生産性を高める戦略的アウトソーシング



株式会社エイジス

証券コード: 4659

Mission

エイジスグループは、プロフェッショナルとして
お客様に最高のサービスを提供することにより、
チェーンストアの発展と豊かな社会の実現に貢献します

▶ Vision

「日本を代表する棚卸のエイジス」から
「アジアを代表するリテイルサポートサービスの
エイジスグループ」へ

エイジスグループは、1978年、日本初の棚卸代行サービス
業として誕生。棚卸のプロフェッショナルとして実績を重ね、今日、名実ともに「日本を代表する棚卸のエイジス」へと
成長しています。

私たちは棚卸サービスを起点とし、多様なリテイルサポー
トサービスを展開するエイジスグループへと成長を続けて
います。海外へも目を向け、アジア各国に現地法人を設立。
棚卸サービスの提供はもちろん、今後、アジア市場において
も積極的にリテイルサポートサービスを展開していきます。

エイジスグループは、グループ各社、各部署、そして全社員
一人ひとりが、Visionをそれぞれの目標に置き換えて、志と
挑戦の精神をもって業務を遂行していきます。グローバル
競争という新たなステージを勝ち抜くことで、さらなる飛
躍を目指し、アジアを基盤に、世界のチェーンストアの発展
と豊かな社会の実現に貢献していきます。

トップインタビュー

アジアの リテイルサポート企業へと 躍進するため

—— エイジスグループは、その歩みを止めません

- Q まずは、当期の事業環境と経営成績について
お聞かせください。
- A 不透明な事業環境の下、過去最高の売上高、
利益を達成いたしました。

当期の国内経済は、通期にわたる原油安や上期の円安を背景と
して緩やかな回復基調をたどったものの、中国の景気減速や資源
価格の下落による新興国経済の低迷という外的な不安要因が大き
く影を落とす一年でした。また、当社の主要顧客であります流通
小売業界においては、一部の地域や業態でインバウンド消費の
好影響はあったものの、低迷からの持ち直しが迫力を欠く状態が
続きました。eコマース消費の拡大を背景とした業態を超えた競
争状態も続き、総合スーパーであるG.M.S.、コンビニエンススト
ア、ドラッグストアおよび専門小売店は、それぞれに好不調の波が
大きい一年となりました。

このような環境の下、当期の連結経営成績は、「国内棚卸サー
ビス」、「海外棚卸サービス」、「リテイルサポートサービス」という
3つのセグメントが全て増収、増益を達成したことにより、3期連続
の増収、増益を達成することができました。また、売上高、営業
利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益のいずれも

代表取締役社長
齋藤 昭生

過去最高を更新しております。

これにより、株主の皆様への当期の期末配当につきましては、前期末配当より5円増配することとし、1株につき50円とさせていただきます。

Q A 期中に発表した上方修正をさらに上回る 好調な決算となった要因を教えてください。

それぞれのセグメントが計画を クリアしたことに尽きます。

まず、売上高の約75%を占める「国内棚卸サービス」については、前期より「収益力強化」を中期課題と位置づけ、新しい棚卸機器の導入・入替え、そして新システムによるオペレーションの導入を進めてまいりましたが、その効果が年度を通じて表れたと考えております。当社の試算ではありますが、このセグメントにおける生産性は2期前から約9%上昇しており、料率の下げ止まりと合わせて増益に貢献したと考えております。また、顧客の決算期の関係で、棚卸は2月および8月に繁忙期を迎えますが、それ以外の月との繁閑格差の縮小に努めてまいりました。月次売上高のボトムとピークの差は、2期前に6倍以上ありましたが、当期は3.7倍にまで縮小させることができました。このことが、業務の平準化につながったと分析しております。

また、売上高の約16%を占める「リテイルサポートサービス」は、前期比でみた売上高の伸び率が最も高かったセグメントです。これは、単なる棚卸と異なり、店舗における「集中補充サービス」、「覆面調査サービス」を始めとする、小売店の売上・サービスの向上に寄与する請負サービスです。小売業向けに「集中補充サービス」の売上が伸び、「覆面調査サービス」は小売業以外の業種での売上が伸びました。

これらのさらなる拡販をねらい、当期は広告宣伝活動にも力を入れました。2016年3月に東京ビッグサイトで行われた「リテールテック2016」へ出展し、また、日経MJ誌にも広告を掲載しました。さらに、2016年4月には営業ポータルWEBサイトも開設しました。

「(日本の)棚卸のエイジス」から「(アジアの)リテイルサポートのエイジスグループ」へと成長を遂げている当社グループのサービス内容をより知っていただき、棚卸で培った顧客資産・人的資産をリテイルサポートサービスの拡販に向けてクロス営業を行ってまいります。

さらに、連結子会社であるエイジススタッフサービス株式会社が非連結子会社の株式会社プリズム・ジャパンを2016年4月1日に吸収合併し、エイジスマーチャンダイジングサービス株式会社に商号を変更して大きく生まれ変わりました。「国内棚卸サービス」に次ぐ、新たな事業の柱として、この「リテイルサポートサービス」を引き続き大きく伸長させてまいります。

最後に「海外棚卸サービス」ですが、連結売上高に占める比率も9%を超えるセグメントに成長し、遂に黒字化を果たすことができました。地域別に見ても、韓国、マレーシアに続き、香港、上海、タイにおいても黒字となっております。海外事業を進めるにあたり、当初は棚卸スキルの無い現地スタッフの教育から始めましたが、いずれは現地の法律や商行為慣習などを熟知している現地スタッフがその幹部を務め、業容を拡大して欲しいという思いがありました。また、このことは日本人スタッフの削減による販売管理費の軽減という効果もあり、黒字化に寄与しました。このセグメントにおいて得られたノウハウは当社の大きな財産であります。

Q A 2017年3月期の事業計画について教えてください。

9.1%の増収、16.9%の増益を見込んでおります。 (%表示は対前期増減率)

まずグループ全体の連結売上高としては、9.1%増加の26,010百万円を見込んでおります。「国内棚卸サービス」については、先ほど申し上げましたように、国内の流通小売業界を巡る環境が劇的に改善することは想定しておらず、売上高については微増を想定しておりますが、引き続き収益力の強化に努め、営業利益については17%程度の増益を見込んでおります。また、「リテイルサ

ポートサービス」につきましては、株式会社プリズム・ジャパンの吸収合併効果もあり、売上高は53%増と大きな見込みとなっておりますが、その効果による今年度利益への大きな貢献は見込んでおらず、セグメント営業利益としては18%程度の増益としております。また、「海外棚卸サービス」につきましては、現地通貨ベースでは13%の売上高の増加を見込んでおりますが、円ベースでは円高の影響があり、3%程度の増収、同じく3%程度の増益見込みとしております。これらの集計で、連結営業利益については全体で16.9%増加の3,096百万円を見込んでおります。

Q A 今後の展開について教えてください。

アジアのリテイルサポート企業へと躍進すると 同時に、企業の社会的責任を果たしてまいります。

2017年3月期が最終年度となる中期経営計画について、当期は、2回上方修正をお伝えしました。この2017年3月期連結業績予想については、さらに上方修正をし、営業利益率につきましても11.9%を新たな目標といたしました。

これから目指している方向性は、「アジアのリテイルサポート企業としての躍進」です。国内事業においても、生産性を常に意識しながら、例えば、棚卸サービスのみご利用いただいている顧客に、「リテイルサポートサービス」を含めた他のサービスをご利用いただくクロス営業も推進してまいります。また、海外展開においても、これまでに得られた知識・ノウハウを最大限に活かし、慎重に見極めながらその進出エリアの拡大を計画していきます。そして近い将来、海外においても「リテイルサポートサービス」を提供することにより、事業セグメントを4つの分野に広げたいと考えております。これらの目標の達成に向けて、当社グループが歩みを止めることはありません。

今般、当社は2016年5月19日付にて千葉労働局長より、千葉県内および千葉県外に所在するディストリクトオフィス^(注)に係る違法な長時間労働については是正指導を受け、企業名が公表されま

(注) ディストリクトオフィスとは、営業所のことであります。

した。これにより、株主の皆様を始めとするステークホルダー(利害関係者)の皆様には、ご心配とご迷惑をおかけする事態となりましたことを心よりお詫び申し上げます。指導を受けました内容につきましては真摯に受け止めております。当社は、既に2016年4月より代表取締役社長である私を委員長とした社内プロジェクトを発足させ、外部の専門家による助言を得ながら、「労働時間管理の徹底」、「業務量平準化への取り組み」および「業務効率化の推進」の3点に重点を置いた取り組みを開始いたしました。今後改善状況を検証し、必要な対策を講じることといたします。

また、社会的責務を負う企業として、今後はさらに人財、価値観の多様性を意識した経営を心掛ける所存です。国籍、障がいの有無、性別、年齢など、その多様性が企業としての革新的な発想、イノベティブなチャレンジを支えるものだと考えます。その一環として、「子育てサポート企業」として厚生労働大臣の認定を受ける「くるみん」の取得を目指したいと考えております。

株主の皆様におかれましては、当社グループの取り組みを是非ご理解いただき、今後ともさらなるご支援を賜りますようお願い申し上げます。



当期の業績について
3つのポイント

POINT 1

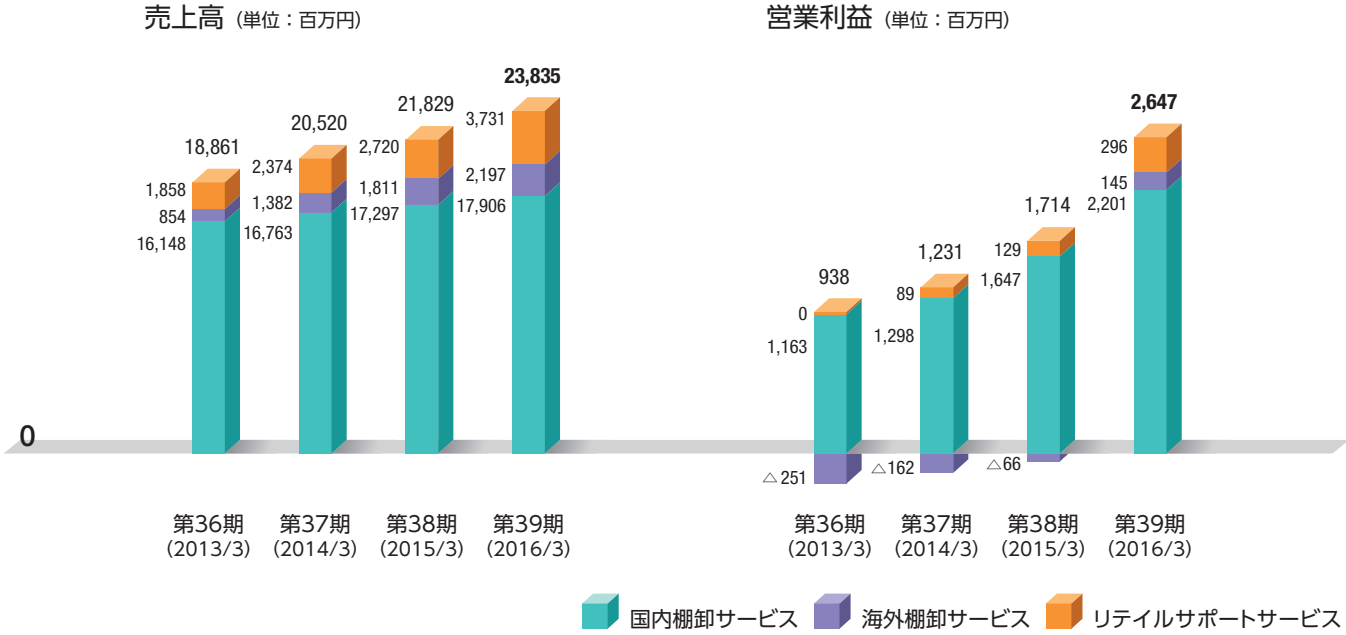
連結売上高、営業利益で過去最高を記録
7期ぶりに過去最高益を更新いたしました（売上高は5期連続過去最高を更新）

POINT 2

全セグメントにおいて大幅な収益改善
海外棚卸サービス事業、リテイルサポートサービス事業が軌道に乗りました

POINT 3

海外棚卸サービスの黒字化を達成
経営幹部の現地化推進等により経営効率を改善し、黒字転換いたしました



国内棚卸サービス

主なサービス内容：
当社の実地棚卸サービス事業



国内棚卸サービス事業

商品棚卸 ▶ 国内における利益管理・商品管理を目的として在庫金額・数量を確定するサービス。
資産棚卸 ▶ 国内における企業オフィス等の情報機器、設備、什器等の固定資産の有効活用と管理を目的として資産を実地調査し、データベースを構築するサービス。
その他 ▶ 単品棚卸システムを活用してPOSレジスターに登録されている価格と売場に表示されている価格の不一致を実地に調査するスキャンチェックなど、流通業周辺の様々なサービス。

海外棚卸サービス

主なサービス内容：
海外連結子会社の実地棚卸サービス事業



海外棚卸サービス事業

商品棚卸 ▶ 海外における利益管理・商品管理を目的として在庫金額・数量を確定するサービス。
資産棚卸 ▶ 海外における企業オフィス等の情報機器、設備、什器等の固定資産の有効活用と管理を目的として資産を実地調査し、データベースを構築するサービス。
その他 ▶ 単品棚卸システムを活用してPOSレジスターに登録されている価格と売場に表示されている価格の不一致を実地に調査するスキャンチェックなど、流通業周辺の様々なサービス。

リテイルサポートサービス

主なサービス内容：
国内連結子会社の
リテイルサポートサービス事業



リテイルサポートサービス事業

人材派遣 ▶ 流通小売業周辺業務およびその他軽作業業務へ要員を派遣するサービス。
集中補充 ▶ 閉店後から翌日の開店までに、品切れのない売場作りを行うサービス。
カスタマーサービス・チェック ▶ 店舗における従業員の接客サービスレベルとストアコンディションを覆面調査員が調査するサービス。

売上高 17,906 百万円

セグメント利益 2,201 百万円

棚卸閑散期の業容拡大および生産性の改善については、いずれも着実に成果が現れました。利益面では、棚卸繁忙月である2月および8月の売上高を戦略的に別月へ移行し、業務の平準化を推進したことにより、棚卸繁忙月における棚卸経験者比率は改善いたしました。さらに作業効率向上につながる新システムおよびオペレーションの導入により、生産性の改善につながりました。

売上高 2,197 百万円

セグメント利益 145 百万円

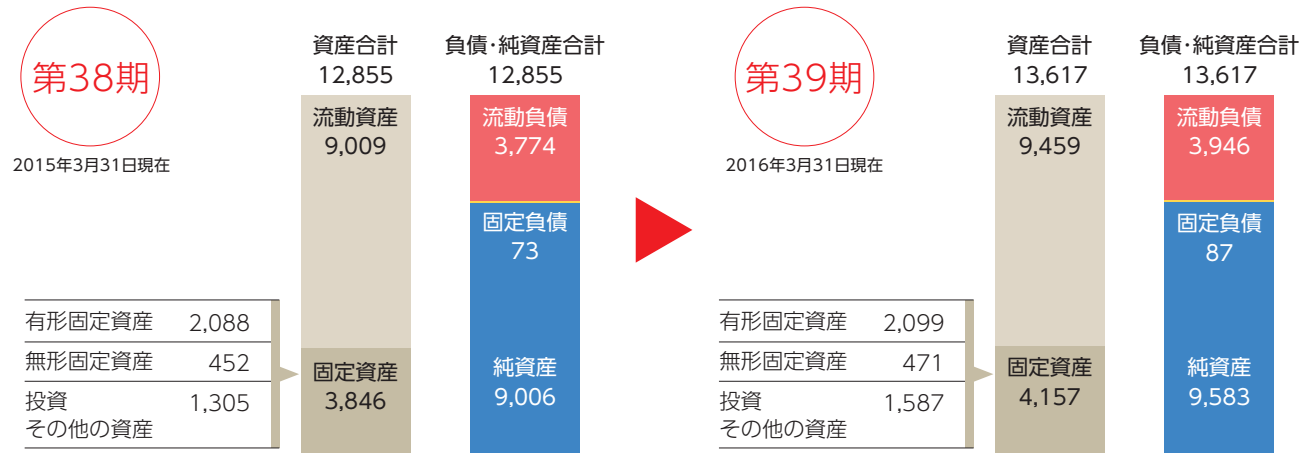
現地通貨ベースで連結子会社7社中、6社で増収となり、売上増加基調で推移しております。利益面では、前期より継続して取り組んでまいりました経営幹部の現地化推進等により経営効率を改善し、黒字転換いたしました。

売上高 3,731 百万円

セグメント利益 296 百万円

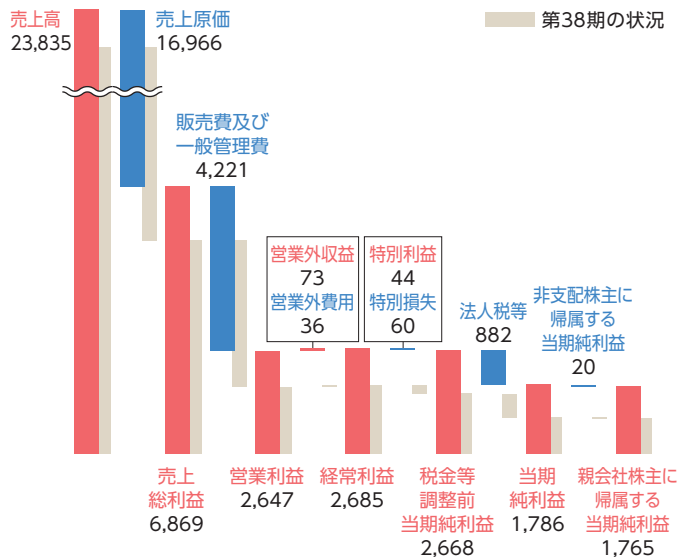
連結子会社全2社で増収増益となり、売上増加基調で推移しております。エイジススタッフサービス株式会社は既存クライアントとの関係強化による売上増、エイジスリサーチ株式会社は販売チャネルの多様化を進め売上増となりました。

貸借対照表の概要 (単位：百万円)



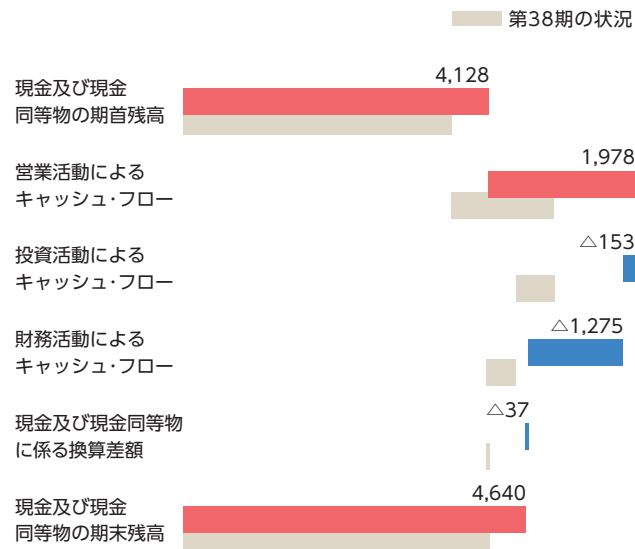
損益計算書の概要 (単位：百万円)

2015年4月1日～2016年3月31日



キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位：百万円)

2015年4月1日～2016年3月31日



※「企業結合に関する会計基準」等を適用し、当期より、「少数株主損益調整前当期純利益」は「当期純利益」に、「少数株主利益」は「非支配株主に帰属する当期純利益」に、「当期純利益」は「親会社株主に帰属する当期純利益」としております。

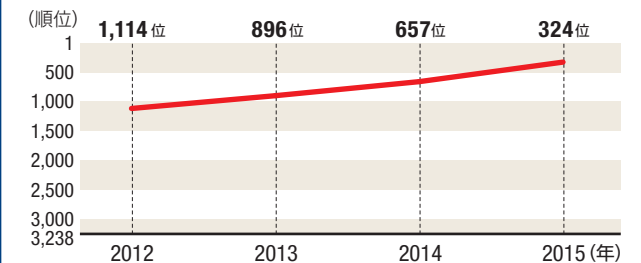
井上哲男が見るエイジス

今回は、当社の経営指標について、統一基準で長年企業ランキングを作成しているスプリングキャピタル代表の井上哲男氏に分析していただきます。

スプリングキャピタルは東証33業種のうち、金融4業種をのぞく29業種全社を対象として経営指標ランキングを作成しており、その対象社数は毎年約3,300社である。エイジスの2015年度の「経営指標総合ランキング」は3,238社中324位で、ほぼ上位10%に位置しており、これは、同社の過去最高順位である。「経営指標総合ランキング」は、売上高や利益の成長性から算出される「成長性」、投資家の注目度の高いROE(自己資本利益率)、ROA(総資産事業利益率)から算出される「資本利益率」、そして、「売上高利益率」、「健全配当性向」の4項目から構成される総合順位であるが、これらの項目のうち、目を引くのは「資本利益率」の順位(3,238社中153位)であり、これは上位5%内である。近年、同社が目指してきた収益性の向上が実を結んでいることの表れと言える。

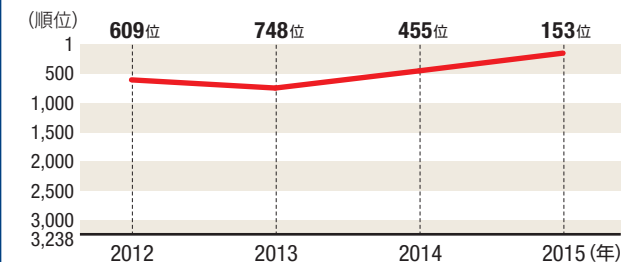
経営指標総合ランキング

全業種【29業種】324位／3,238社(上位から10%以内)



資本利益率ランキング

全業種【29業種】153位／3,238社(上位から5%以内)



流通小売業が主要顧客であり、近年、同社を巡る経営環境は決して追い風とは言えなかったが、現在の成長は、「国内棚卸サービス」に加えて「リテイルサポートサービス」がもうひとつの主力事業として伸長している結果である。また、「海外棚卸サービス」も黒字化を果たしたが、アジアでの伸びしろはまだ大きく考える。

Profile

スプリングキャピタル代表
井上 哲男氏

30年にわたるヘッジファンド、投資信託の運用を経て現職。日経CNBCテレビ「夜エクスプレス」、ラジオNIKKEI「アサザイ」のキャスターも務める。

株式情報

株式の状況 (2016年3月31日現在)

発行可能株式総数	14,000,000株
発行済株式の総数	5,385,600株
株主数	2,614名

大株主 (上位10名) (2016年3月31日現在)

株 主 名	当社への出資状況	
	持株数(株)	出資比率(%)
有限会社齊藤ホールディングス	941,500	17.48
齋藤 昭生	706,780	13.12
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO)	485,300	9.01
齋藤 茂男	203,900	3.78
小林 美保子	191,800	3.56
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	133,300	2.47
齋藤 泰範	127,670	2.37
清水 昭順	86,870	1.61
エイジス従業員持株会	79,456	1.47
資産管理サービス信託銀行株式会社 (証券投資信託口)	68,500	1.27

(注)当社は、自己株式982,721株を保有しておりますが、上記大株主から除外しております。

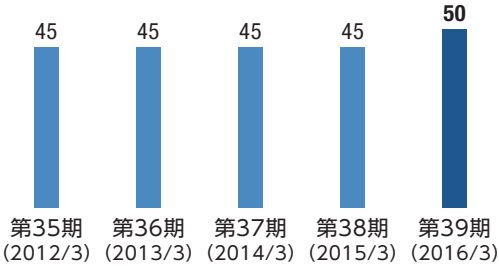
利益配分に関する基本方針

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重点課題と位置づけており、長期的に安定した収益力を保持すると同時に、企業体質強化のための内部留保を勘案し、安定した利益配分を持続させることを基本方針としております。

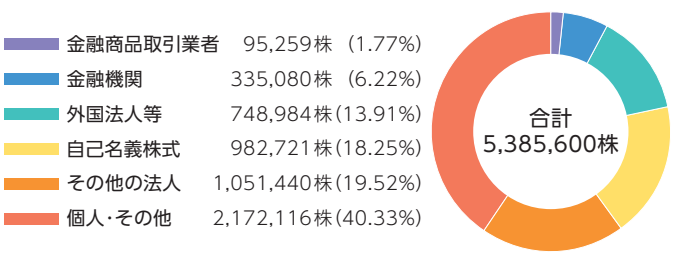
当期の配当につきましては、1株当たり期末配当50円とさせていただきます。

一方、内部留保資金につきましては、今後予想される経営環境の変化に対応すべく、今まで以上にコスト競争力を高め、市場ニーズに応える技術・オペレーション体制を強化するために有効投資してまいりたいと考えております。

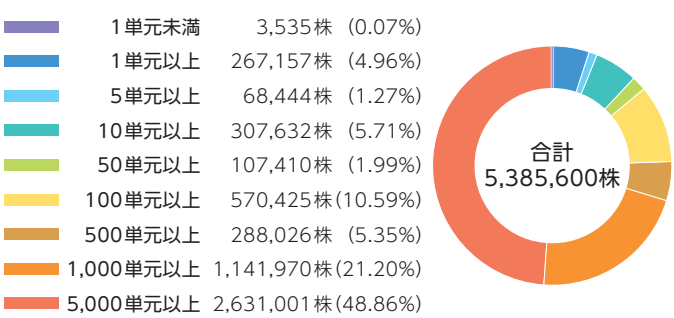
1株当たりの配当金の推移 (単位：円)



所有者別分布状況 (2016年3月31日現在)



所有株数別分布状況 (2016年3月31日現在)



会社情報

会社概要 (2016年3月31日現在)

会社名	株式会社エイジス (英文名 AJIS CO., LTD.)
資本金	475百万円
設立年月日	1978年5月23日
従業員数	253名(686名 ※連結)
営業拠点	直営50ヵ所 FC36ヵ所 (合計86ヵ所)
事業内容	実地棚卸サービス
主要取引銀行	三菱東京UFJ銀行 千葉銀行 みずほ銀行 三井住友銀行
ホームページ	http://www.ajis-group.co.jp/

取締役および監査役 (2016年6月29日現在)

代表取締役社長	齋 藤 昭 生
常務取締役	高 橋 一 人
取締役	竹之下 正 夫
取締役	山 根 洋 行
取締役	福 田 久 也
取締役	森 和 弘 (社外取締役)
常勤監査役	増 子 泰 由 (社外監査役)
監査役	鈴 木 行 雄
監査役	船 橋 茂 紀 (社外監査役)

エイジスグループ (2016年4月1日現在)

